

平成29年度 事業報告項目一覧

項目	ページ
施設本部	1～2
特養生活相談員	3～4
(添付資料) *稼働率	5
*加算取得状況一覧	6
*年齢・所在期間一覧	7
*入所相談受付件数及び入退所状況	8
*ボランティア活動及び実習生・研修生受け入れ実績	9
*行事实績状況	10～12
特養介護職員	13～14
(添付資料) *施設内研修実績	15
*施設外研修実績	16
特養介護支援専門員	17
(添付資料) *業務実績	18
看護職員	19～20
管理栄養士	21
(添付資料) *特養主な行事食	22
*デイ主な行事食	23
*月別栄養所要量	24
*食品群別摂取量	25
*非常食備蓄状況	26
*事業別給食数	27
ショートステイ生活相談員	28～29
(添付資料) *稼働率	30
デイサービス相談員	31～32
(添付資料) *稼働率	33
*介護度別利用実績	34
*曜日別利用実績	35
ケアプランセンター	36
(添付資料) *ケアプランセンター実績報告書	37～38
*居宅介護支援事業	39
*介護予防支援事業	40
各種委員会事業報告	
*虐待防止・身体拘束廃止委員会	41～42
*事故発生防止委員会	43
*褥瘡防止委員会	44
*感染症対策委員会	45
*安全委員会	46
*防災・防犯委員会	47
*接遇委員会	48
*環境整備委員会	49
*労働安全委員会	49
*給食委員会	50
*入所検討委員会	51
*ほっとシニア倶楽部	52

## 施設本部（平成 29 年度）事業報告

### 《 事業計画 》 テーマ 質の向上

1. サービスの質の向上
2. ガバナンスの強化
3. コンプライアンスの徹底
4. 社会貢献事業への積極的な取組み

### 《 実績 》

#### 1. サービスの質の向上

- ・職員の資質向上に向けた取り組みとして、株式会社日本経営主催「社会人基礎研修」を全正職員対象に偶数月・奇数月に分けて1年間（全6回シリーズ）実施。

##### 【研修項目】

- ①接遇・コミュニケーション
- ②気づきと挨拶
- ③早起きと認識即行動
- ④約束と計画
- ⑤報告・連絡・相談
- ⑥整理・整頓・清掃・清潔

- \*職員が同じ研修を受講することで、意識統一が図れた。又、項目ごとに自身の振り返りを行い、次に繋げる目標を掲げて実行に移す事で、基礎能力の底上げに繋がった。

- \*職員定着に向けた取り組みとして、(1) 給与規定の改訂 (2) 制服の完全レンタル (3) 資格取得に向けた支援を実施。

- (1) 給与規定の改訂・・・平成30年4月改訂に向け、資格手当・業務手当の見直し、新手当を設けキャリアアップ体制の強化を図った。
- (2) 制服の完全レンタル・・・平成29年4月よりレンタルを開始。週2回洗濯の為回収、納品数上下各4着としているが、勤務上4着では回らない事がある。現在予備を確保し、足りない時に活用しているが、予備数も十分ではない為、制服不足については今後も検討が必要。
- (3) 資格取得に向けた支援・・・給与規定にて資格手当を充実させ、スキルアップに意欲的に取りくめるよう改訂。

#### 2. ガバナンスの強化

- ・各種マニュアルの整備・須磨シニアとの連携強化、マニュアルの共有を掲げたが、未だ準備途中。今後も継続して行う必要がある。

#### 3. コンプライアンスの徹底

- ・コンプライアンス規定を制定し、全職員を対象に研修会を年2回開催。周知徹底を図った。今後も継続して行う。

#### 4. 社会貢献事業への積極的な取組み

- ・取り組みとして、(1) ほっとシニア倶楽部の活動充実 (2) ふれあい会食会送迎実施 (3) 神出カフェ（認知症カフェ）の開業 を掲げた

- (1) ほっとシニア倶楽部活動・・・平成29年度実施回数 4回延べ39名

地域住民を対象に、外出援助を行う。開催時期や内容によっては参加人数を確保できない事があった。引き続き地域住民を対象に行う。

- (2) ふれあい会食送迎実施・・・定期利用されている方の送迎を毎月第1火曜日実施。今後も継続して行う。
- (3) 神出カフェの開業・・・平成29年度開催回数 5回延べ120名  
偶数月に実施。特養入所者家族・デイ利用者家族にも声をかけ、開催を周知。認知症サポーター研修も開催し、出席者には「オレンジリング」を配布した。認知症に関する情報等の講話を行うなど、参加者の話にも耳を傾け個々の相談に対応した。  
来期は開催月を奇数月に変更し継続していく。

## 特養生活相談員（平成 29 年度）事業報告

生活相談員 東谷友和

### 《 事業内容 》

1. 新規入所・退所への対応
2. 利用者の生活全般及び家族対応
3. 行事の開催・地域交流

### 《 実績 》

\*平成28年度稼働率：92.87%

\*平成29年度稼働率：93.65%

#### 1. 入所検討委員会の開催（定期：12回 随時：9回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所	1名	0名	6名	1名	4名	4名	1名	0名	3名	1名	1名	1名	22名
退所	1名	5名	4名	2名	2名	2名	1名	2名	2名	0名	0名	3名	24名

#### 2. 家族会の開催

- ・4月花見 参加人数 117名
- ・5月家族会 参加人数 71名  
(平成29年度の取り組みについて・苦情受付について・施設での看取りについて・急変時における処置についての同意書・平成29年4月から処遇改善加算Ⅰの料金改定について)
- ・7月本館1階家族会 参加人数 11名  
(・ホットケーキ作り・「脱水」について・施設使用の水分ゼリー試食)
- ・8月盆踊り 参加人数 80名
- ・9月本館2階家族会 参加人数 17名  
(・「脱水」について・「事前アンケート」集計報告・質疑応答)
- ・10月秋祭り 参加人数 91名
- ・11月北館1・2階家族会 参加人数 11名  
(・「身体の拘縮」について・質疑応答・懇親会)
- ・その他
  - ① カンファレンスの出席
  - ② 家族との日程調整（入退院・病院受診など）
  - ③ 入所中、入院中の利用者の状態連絡

#### 3. 行事の開催・地域交流

- ・4月花見      ・5月創立記念日      ・7月七夕会      ・8月盆踊り      ・9月敬老会
- ・10月秋祭り・11月神出文化祭（出展・参加）      ・12月餅つき、クリスマス会
- ・1月新春職員演芸会、ふれあい書道展出展      ・2月節分会      ・3月雛祭りお茶会

## 《 検 証 》

### 1. 新規入所・退所への対応

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率	95.20	91.16	89.67	90.06	91.77	92.77	95.23	96.33	96.32	96.26	95.89	93.16	93.65
平均 介護度	3.86	3.88	3.86	3.89	3.88	3.86	3.96	3.93	3.91	3.92	3.91	3.94	3.90

- ・職員のスキルやケア向上に取り組んだ結果として、前年度と比較すると入院者は減少に繋がったが、6月～9月にかけて、永眠や長期入院が必要な利用者が退所となるケースが多く重なり、さらに、入所対応可能な待機者も減っている事もありスムーズな入所に繋がらず、稼働率が伸び悩んだ。前年度に比べると僅かに稼働率は向上したが、年間目標稼働率に達しなかった。
- ・入所検討委員会は定例会に加えて随時開催したが、退所された後の新規入所までの日数がかかった。

### 2. 利用者の生活全般及び家族対応

- ・家族会は行事に併せて開催でき、多数の家族に参加して頂いた。
- ・フロア毎の家族会を開催し、平日の開催であった事もあり少人数ではあるが参加して頂き、他利用者家族間の交流も図ることができ、好評であった。行事にはたくさんの家族に参加して頂け、職員とご家族とのコミュニケーションの場ともなり、「楽しかった」や「良かった」という声を多く頂くことができた。

### 3. 行事の開催・地域交流

- ・行事实績状況 ⇒ 別紙参照
- ・ドライブや外食等の外出行事の回数が少なかった。

## 《 平成30年度に向けて 》

- ・稼働率を向上する為に、老人保健施設・病院のMSW・居宅支援事業所のケアマネジャーとの連携を図り、新規利用者の紹介に繋げる。
- ・入所待機されている方の家族と連絡を密にし、状況や状態の把握しておく。
- ・ショートステイ相談員と連携を深め、ショートステイ利用から入所に繋げる。  
また空床利用も有効に利用できるよう連携していく。
- ・業務都合等もあり外出行事は神出文化祭のみの参加となった。利用者の重度化もあり、少人数ずつとなるが、数回に分けて外出行事を計画していきたい。
- ・昨年度フロア毎の家族会を行い好評であった為、次年度も年間行事に盛り込む。

## 特養 稼働率

29年度

月	要介護度1		要介護度2		要介護度3		要介護度4		要介護度5		計			稼働率 %
	実人数 人	実日数 日	実人数 人	実日数 日	実人数 人	実日数 日	実人数 人	実日数 日	実人数 人	実日数 日	実人数 人	実日数 日	実日数 /月日数	
H29. 4	0	0	4	120	32	893	37	1080	27	763	100	2856	95.2	95%
5	0	0	3	93	33	930	36	1060	27	743	99	2826	91.2	91%
6	0	0	3	90	33	887	36	949	28	764	100	2690	89.7	90%
7	0	0	3	93	31	857	36	1035	27	807	97	2792	90.1	90%
8	0	0	2	62	31	897	40	1165	26	721	99	2845	91.8	92%
9	0	0	2	51	29	815	40	1132	30	785	101	2783	92.8	93%
10	0	0	2	62	30	912	38	1106	30	872	100	2952	95.2	95%
11	0	0	2	60	30	851	39	1139	28	840	99	2890	96.3	96%
12	0	0	2	62	32	936	38	1120	28	868	100	2986	96.3	96%
H30. 1	0	0	2	62	31	905	38	1149	28	868	99	2984	96.3	96%
2	0	0	2	56	31	799	39	1046	28	784	100	2685	95.9	96%
3	0	0	2	62	30	843	40	1133	29	850	101	2888	93.2	93%
合計	0	0	29	873	373	10525	457	13114	336	9665	1195	34177	93.6	94%

28年度	0	0	39	1184	373	10438	393	11454	382	10823	1187	33899	92.9	93%
------	---	---	----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	------	-----

平成29年度 特養 加算取得状況一覧

月	栄養マネジメント加算 日	口腔衛生管理体制加算 人 日		療養食加算 人 日		経口維持加算 I 人	看取り介護加算				看護体制加算 I II		外泊加算						初期加算 人 日							
							人	日	人	日			人	日	人	日	人	日			外泊		入院		合計	
																					人	日	人	日	人	日
4	2,738	94	146	5	146	11					2,738	2,738			6	19	6	19	3	62						
5	2,805	96	144	6	144	11	1		2	1	3	2,805				17	86	17	86	1	6					
6	2,711	95	150	5	150	12						2,711	2,711			9	48	9	48	6	126					
7	2,906	99	155	5	155	12	1	3	2	1	6	2,906				5	29	5	29	8	90					
8	2,924	99	155	5	155	14						2,924	2,924	1	1	5	27	6	28	7	110					
9	2,835	98	150	5	150	13						2,835		1	1	5	26	6	27	5	61					
10	2,902	96	155	5	155	14	1		2	1	3	2,902				3	15	3	15	5	3					
11	2,773	98	175	7	175	13						2,773				3	16	3	16	4	82					
12	2,903	97	216	7	216	12	3	25	4	3	32	2,903	2,903			3	18	3	18	5	89					
1	2,822	96	215	7	215	9	3	3	4	3	10	2,822		5	7	2	12	7	19	2	36					
2	2,613	97	222	8	222	8						2,613	2,613			4	24	4	24	3	57					
3	2,967	100	217	7	217	8						2,967	2,967			7	36	7	36	3	32					
計	33,899	1,165	2,100	72	2,100	137	9	31	14	9	54	33,899	16,856	7	9	69	356	76	365	52	814					

## 特養 年齢・在所期間一覧

年齢別性別状況（特養）（契約者数 98名）

（平成30年3月31日現在）

性別	年齢									合計	平均	最高	最低
	64才以下	65才	70才	75才	80才	85才	90才	95才	100才以上				
男	1	2	4	0	2	7	6	0	0	22	82.0	93	54
女	0	2	2	5	12	17	22	12	4	76	88.5	104	69
計	1人	4人	6人	5人	14人	24人	28人	12人	4人	98人	87.0	104	54

在所期間状況（契約者数 98名）

（平成30年3月31日現在）

性別	期間											合計
	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	6年未満	7年未満	8年未満	9年未満	10年未満	10年以上	
男	6	6	2	1	2	2	3	0	0	0	0	22
女	15	14	15	7	3	3	6	6	3	3	1	76
計	21人	20人	17人	8人	5人	5人	9人	6人	3人	3人	1人	98人



特養 入所相談受付件数及び入退所状況

平成29年度

月	入所相談受付(人)	新規入所者							退所者						入院者(人)
		在宅	その他				病院	計(人)	家庭復帰	医療機関入院	他施設への転出	死亡	その他	計(人)	
			他の福祉施設	小規模多機能	グループホーム	老健									
4	4	1					1				1		1	5	
5	2						0		4		1		5	8	
6	4	1		1		2	2	6		3		1	4	5	
7	1						1	1				2	2	5	
8	3	3					1	4		1		1	2	5	
9	2	2				1	1	4		1		1	2	6	
10	1					1		1		1			1	3	
11	3							0				2	2	1	
12	1	3						3				2	2	1	
1	5					1		1					0	3	
2	6					1		1					0	6	
3	3	1						1		2		1	3	8	
合計	35	11	0	1	0	6	5	23	0	12	0	12	0	24	56

毎月末時人数

前年度

合計	70	9	1	0	0	5	15	30	0	6	0	20	0	26	46
----	----	---	---	---	---	---	----	----	---	---	---	----	---	----	----

# 特養 ボランティア活動及び実習生・研修生受け入れ実績

平成29年度

## 《クラブ活動》

クラブ活動名	日 時	実施回数 参加延人数
踊り教室 (講師 村井敏子様他)	第4火曜	2回 70名
生け花クラブ (講師 中嶋 嘉代子様)	第4木曜	9回 59名
書道クラブ (講師 谷本様)	第1水曜	8回 90名
音楽セラピー (講師 レインボー) ( 吉田 公美子様)	第3金曜	8回 146名
化粧クラブ ノエビア (講師 中井 優子様)	第2・第4水曜	8回 61名
茶道クラブ (講師 三宅 和子様)	第2土曜日	6回 60名
買物・外出クラブ	不定期	3回 15名

(敬称略)

## 《ボランティア》

ボランティア団体名	回数
GG倶楽部 (ギターアンサンブル)	2
リコリコ (リコーダーアンサンブル)	3
すもっくS (女性コーラスグループ)	1
富田(毎月2回) ぐうちよきばあ(毎月1回) (散髪)	2
フジワラ	3
シオン合唱団	1

(敬称略)

## 《ワークキャンプ》

団体名	実施日	人数	内 容
神戸市立 神出中学校	7月26日(水)	1名	・利用者と話をする
	7月27日(木)		・入浴後ドライヤー乾燥 ・食事配膳
	7月28日(金)		・レクリエーション見学 ・おやつ介助
神戸市立青陽 須磨支援学校	5月11日(木)	1名	・洗い物
	5月18日(木)		・ベランダ清掃 ・車イス清掃
	5月25日(木)		・居室清掃
神戸市立青陽 須磨支援学校	7月 6日(木)	1名	・洗い物
	7月13日(木)		・ベランダ清掃
	7月20日(木)		・車イス清掃
	7月27日(木)		・居室清掃

# 特養 行事実績状況

平成29年度

日時		行事	参加人数			内容
			特養	S. S.	家族	
4	2	お花見	全員	全員	117	56家族117名の家族参加があり、今年 はパンダ焼きを準備し好評であった。 また、職員が着物を着用しパンダ焼きや桜 茶を振る舞いお花見を楽しんで頂けた。
5	1	創立記念日	全員	全員	-	創立21周年を祝う。永年勤続の職員を表 彰。昼食は中華オードブルとし、各フロア で中華料理店をイメージし、回転台を用意 し大皿に盛り付け、好きな物を選んで取り 分け食事を楽しんで頂きました。皆様お替 りをされ普段よりたくさん召し上がられま した。 また、メニューを記載した中華風のランチ ョンマットを皆様に用意し、持ち帰り希望 もあり好評でした。
7	7	七夕会	全員	全員	-	各フロアーに笹を準備しご利用者・ご家族 ・職員が短冊に願い事を書き、飾り付けを 行った。 昼食は鮭のチラシ寿司や鱈の湯引き等七夕 らしい食事を楽しんで頂いた。 午後からはレクリエーションとして、職員 が各フロアを周り、七夕の紙芝居と歌を唄 い、ご利用者にはタンバリン・鈴・鳴子を 持ってもらい、一緒に楽しんで頂いた。
8	20	盆踊り	全員	全員	80	38家族80名の家族参加あり。 北館一階に櫓を設営し、出来るだけ皆様に 楽しんで頂けるよう、混雑回避の為、昨年 同様に2部制に分け実施。 踊りボランティアで来ていただいている村 井先生等に来ていただき、ご利用者・ご家 族・職員が輪に入り、盆踊りを楽しんで頂 いた。 また、綿菓子・ポップコーンを用意し、お 子様等皆喜ばれていた。

9	19	敬老会	全員	全員	-	<p>昼食は祝い膳でお祝いした。午後から、慶寿の方々14名の表彰・お祝いの品を送り、村井先生の踊り・神出楽団による演奏・新人職員による出し物・ご利用者による詩吟等を行い、皆様に楽しんでいただいた。</p>
10	22	秋祭り	全員	全員	91	<p>51家族91名の家族参加とデイサービスご利用家族や地域の方多数お越しいただいた。</p> <p>今年のコンセプトとして、収穫祭～地産地消～として秋の味覚を楽しんで頂いた。</p> <p>また、ご利用者や地域の方に呼びかけ、ご自宅で生産されている野菜や果物を募集し、たくさんの野菜や果物をいただき、調理し皆様に振るまつた。</p> <p>また、たこ焼きや天ぷら等屋台でお出しし楽しんで頂いた。</p>
11	9 10	神出文化祭	10	-	-	<p>近隣の公民館にて開催。地域イベントの神出文化祭に特養より、書道6名・貝キーホルダー1名・SS共同作品のコスモス壁画・きめこみ等を出展。</p> <p>出展者を中心に2日間延べ10名の方を会場にお連れし、自身の作品や他の方の作品を鑑賞し、楽しまれた。</p> <p>鑑賞後は、皆様と共に和菓子や抹茶をいただき、大変喜ばれる。</p>
12	25	クリスマス会	全員	全員	-	<p>各フロアにクリスマスツリーを設置し、ご利用者と共に飾り付けを行う。クリスマス会では昼食に鶏の丸焼きやオードブルをお出しし、皆様美味しそうに食べられた。</p> <p>午後からは職員が、サンタクロースやトナカイとなり、ハンドベルでの演奏や、ご利用者と共にクリスマスソングを唄い、楽しんでいただいた。</p>
	27	もちつき	全員	全員	-	<p>インフルエンザや風邪等、感染予防の為特養・SSご利用者のみの参加で行う。皆様に見て頂くよう、1階・2階に分けてもちつき大会を実施。</p> <p>ご利用者にもついていただき、年の瀬を感じて頂く。つきたてのお餅をお汁粉にして食べて頂き、皆様美味しそうに食べられた。</p>

1	11	職員演芸会	全員	全員	-	皆様にお集まりいただき、北館・本館・事務所等各部署の演芸披露。ご利用者・職員共々新年の門出をお祝いし、皆様職員の演芸を楽しまれた。
2	3	節分	全員	全員	-	昼食に巻き寿司や鰯料理等、節分にちなんだ食事をお出しし、皆様お替り等もし美味しく食べられた。また年男・年女の紹介し、職員が鬼に扮し豆の代わりにカラーボールを使用し、鬼退治をして楽しめる。
3	3	雛祭りお茶会	全員	全員	-	今年は世間でのインフルエンザ流行等もあり、各フロアで抹茶をたて、和菓子と共に皆様に振るまつた。 職員やご利用者にも着物を着ていただきお茶を楽しんでいただき、皆様と共に楽しまれた。

## 特養介護職員（平成29年度）事業報告

介護主任 黒木俊雄

### 《 事業内容 》

テーマ 『やめない職員、環境作り』

- 計 画
1. 生活支援技術、知識の平準化
  2. 介護職員の環境を整える

### 《 実 績 》

#### 1. 生活支援技術、知識の平準化

- ・留学生が勤務することになり、車椅子操作方法の指導を行い、安全に操作できるまでに成長した。
- ・平準ケアを作成し、各フロアに配布したが確認までは至らず。

#### 2. 介護職員の環境を整える

- ・職員から上司への報告、連絡、相談はできている。個別面談する件数は少ないが、事象が生じた場合は早急に面談を行った。
- ・虐待防止委員会では、不適切なケアは発生していなかったか、挙げてもらうようにした。未熟な生活支援技術により不適切なケアに至ってしまっているのが現状である。
- ・身だしなみ、言葉遣い等接遇面も同様である。適切か不適切かの区別ができず気付いていないのが現状である。
- ・利用者の処遇に関しては、担当職員の役割を文面で周知した。
- ・行事、クラブ活動、誕生日祝いのメッセージカードを手渡す等も担当割りし、それぞれの職員が責任を持ち、業務が遂行できていた。
- ・入浴に関しては、スライディングボード、移乗方法の見直しにより、腰痛等の身体的な疲労は軽減できた。
- ・入浴介助が難しい利用者が集中する曜日は利用者を他曜日に分散し、フロア単位で固めて入浴できるようにし、負担軽減を図った。

### 《 反省・検討 》

人員の減少もあり、効率化を求めてきた結果、利用者が置き去りになってしまいがちな傾向にあった。留学生を有効に活用することを考え、今後生活支援技術の習得、向上に力を注いでいく必要がある。介護経験5年未満の職員も同様である。

経験を積みながら技術、考え方、モチベーション等を向上させることで、気持ちにゆとりが持てるようになると考えられる。この施設は利用者の生活の場であることの再認識、基本に返って「介護」とは何かを皆で考えながら、実践できる職員を増やしていきたい。

## 《各フロアの反省》

### ＜本館 1 階＞

ご利用者の日々の様子を観察し、小さな変化に気付く目を養う。気付いた変化は職員間で共有し、統一したケアを提供していきます。

⇒ご利用者と積極的に関わりを持ち、様子の観察を意識することで、体調面や精神面の変化に早期に気付き対応することができた。また、職員間で情報を共有するよう努めたが、多職種との共有においては不十分なところがあった。今後もケース記録や申し送りを活用することで、多職種との情報共有を意識し、ご利用者にとってより良いケアを提供できるよう努めていく。

### ＜本館 2 階＞

職員間での情報共有を行い、ご利用者一人一人に合った適切なケアを行うとともに環境整備に努めます。

⇒職員間での情報共有は出来ていたように思うが、個々に応じた細やかなところまでのケアが不十分であったと思う。気付きと観察力の目を養い、意識の共有、チームワークの充実に努めていく。

### ＜北館 1 階＞

最期まで安心して過ごして頂けるよう、ご利用者やご家族の気持ちに寄り添いながら負担や苦痛の少ないケアを提供していきます。

⇒居室では音楽を流したり、花を飾ったりして、状態に応じ個室を使用し安楽に過ごせる環境を提供できた。訪室回数を増やし声かけを行ったり、身体に触れたりする等コミュニケーションを図る。ご家族面会時には不安な事がないか、積極的に話しをする機会を持つことで、気持ちに寄り添うことができた。他職種と連携を図りながら状態に合わせたより良いケアを提供することができた。今後も最期まで安心して過ごせる環境を提供するとともに、負担や苦痛が少ない穏やかな時間を作っていく。

### ＜北館 2 階＞

ご利用者に安全・安心に過ごしていただくため、ご利用者や職員間で気持ち良いコミュニケーションをとる意識を持ち、さらにケース記録内容の充実、確認。

⇒コミュニケーションに関して、各自意識を持っていたが、実施できていない時もあった。今後も気持ち良いコミュニケーションを意識し、ご利用者の安心、安全につながるように務めていく。

## 《平成 30 年度に向けて》

- ・留学生の生活支援技術の底上げ(入浴・食事・排泄)。
- ・記録方法の平準化。
- ・駄目なことは「ダメ」と言える環境作り。
- ・適切な介護、不適切な介護の区別が判断できる職員作り。
- ・生活支援技術の平準化。
- ・適切な接遇(身だしなみ、言葉遣い、敬語)を実践できる職員作り。

## 平成29年度 施設内研修実績

### 《サービス向上》

研修名	開催日	参加総人数(介護職員数)
接遇指導者研修報告	平成29年5月10日・15日	47名(34名)
高齢者虐待防止研修	平成29年6月14日・19日・21日	95名(48名)
感染症について 薬について(事故防止)	平成29年7月13日・24日	51名(38名)
ケアプランに沿った看取り エンゼルケア	平成29年8月9日・21日	38名(28名)
事例を通じてケアを振り返る (認知症ケア)	平成29年9月13日・19日	39名(26名)
おむつ装着におけるスキンケア 陰部洗浄の重要性	平成29年10月12日・16日	45名(29名)
高齢者虐待防止研修	平成29年11月8日・15日・20日	101名(49名)
感染症対策の基本	平成29年12月20日	44名(39名)
危険予知訓練等	平成30年2月14日・19日	45名(32名)
模擬カンファレンス	平成30年3月19日	34名(24名)

539名(347名)

### 《外部講師》

研修名	開催日	参加総人数(介護職員数)
社会人基礎:接遇・コミュニケーション	平成29年4月27日・5月30日	56名(40名)
社会人基礎:気づきと挨拶	平成29年6月27日・7月25日	59名(37名)
社会人基礎:早起きと認識即行動	平成29年8月29日・9月26日	63名(39名)
社会人基礎:約束と計画	平成29年10月31日・11月28日	56名(35名)
社会人基礎:報告・連絡・相談	平成29年12月26日・平成30年1月30日	54名(27名)
社会人基礎:整理・整頓・清掃・清潔	平成30年2月27日・3月27日	50名(31名)
王子ネピアおむつ講習会	平成29年7月13日	5名(5名)

343名(214名)

### 《その他》

研修名	開催日	参加人数
3年目介護職員研修	平成29年4月13日	2名
介護技術研修	平成29年8月17日	6名
ケア勉強会	平成29年9月8日	8名
看取り勉強会	平成29年4月21日・5月19日・6月16日・7月21日	22名
口腔ケア指導	毎週水曜日	毎週4名



平成29年度 施設外研修実績

研修名	開催日	参加人数
神戸市高齢者介護士講習会	平成29年5月13日 6月12日 6月24日 8月6日	2名ずつ
ビジネスマナー研修	平成29年5月16日 5月26日	2名ずつ
接遇マナー研修	平成29年5月22日	1名
福祉関係職員合同入職式	平成29年6月13日	3名
介護士会総会	平成29年6月16日	1名
社会人高齢者介護講習会	平成29年6月24日 7月13日	2名ずつ
神戸市老施連主催接遇指導者研修	平成29年7月13日 7月18日 9月19日 10月17日 11月21日 12月19日 平成30年1月16日 2月20日	1名ずつ
フォローアップと後輩指導	平成29年7月4日	2名
OJTリーダー養成研修	平成29年7月7日	2名
社会福祉施設職員激励会	平成29年7月26日	6名
喀痰吸引基本研修	平成29年7月12日 7月24日 7月25日 7月26日 7月27日 7月28日 7月31日 8月1日 8月2日 8月3日	1名ずつ
感染症研修会	平成29年8月25日	1名
チームアプローチ研修	平成29年8月25日	1名
業務課題の改善研修	平成29年9月15日 9月22日	1名
福祉教育プロジェクト	平成29年9月21日	1名
ターミナルケア研修	平成29年9月22日	2名
ストレスマネジメント研修	平成29年10月10日	1名
感染症予防対策研修	平成29年10月26日	1名
不適切なケア職員研修	平成29年10月28日	1名
理由を探る認知症ケア研修	平成29年11月7日	2名
介護士会研修会	平成29年11月8日	1名
介護事故予防研修	平成29年11月15日	1名
医療・介護連携に向けた研修	平成29年11月28日	1名
高齢者虐待対応力向上研修	平成29年12月6日	1名
福祉職のための薬の知識	平成29年12月6日	1名
第3回介護士会	平成29年12月6日	1名

## 特養介護支援専門員（平成29年度）事業報告

介護支援専門員 池田忍

### 《 事業計画 》

1. なぜそのケアプランが必要なのかを理解する
2. モニタリングの視点を統一する。

### 《 実績 》

1. なぜそのケアプランが必要なのかを理解する
  - ・生活上の課題が発生した場合は、カンファレンス等で意見を出し合い、課題分析することでこれまでの生活歴を振り返り、また利用者本人に状況を確認して、利用者理解を深めるような対応ができるようになった。
  - ・職員間で統一したケアが施行できるように、ケアプランの内容の理解を各チームメンバーができるようになった。
  - ・ターミナルケア（看取り介護）について、勉強会を開催して当施設で実施する看取り介護の内容を具体的なものにして「看取りに関する指針」を改訂した。
2. モニタリングの視点を統一する
  - ・3月に「模擬カンファレンス～事例を通じてカンファレンスの在り方を考える～」と題してサービス向上委員会を開催した。その時にモニタリングシートの記載例を作成し配布した。ケアプランを実施してどうだったか？効果はあったのか？今後も継続は必要なのか？などモニタリングの視点を説明した。家族が知りたいことや家族に伝えておくことなどカンファレンスの在り方など説明することができた。

### 《 反省・検討 》

- ・退院時や状態変化時に随時カンファレンスを開催して、家族と共にケアの方向性を確認するようにした。

### 《 平成30年度に向けて 》

- ・カンファレンスにてチームメンバーが、利用者の現況・問題点・提案事項の要点をまとめて発言できるように、チームメンバーのカンファレンスでの発言力の向上を目指す。
- ・新入所後の初回モニタリングにて、各介護担当職員が生活上の課題を明確にして実施可能なケアプランの立案ができるようにする。
- ・褥瘡発生、経口維持加算、口腔衛生管理加算等について、適切にケアプランを変更する。

## 特養 介護支援専門員業務実績

平成29年度

カンファレンス(サービス担当者会議)

	定期(3ヶ月毎)			入所時	ターミナルケア			デス	その他 (退院等)
	回数	人数	家族 出席率		初回	モニタリング (人)	(回数)		
H29. 4	6	36	63%	1	0	0	0	0	2
5	5	25	50%	0	1	1	1	1	1
6	6	32	70%	6	0	0	0	0	0
7	6	33	66%	1	1	0	0	0	4
8	5	25	72%	2	0	1	2	1	0
9	5	34	35%	3	0	0	0	0	1
10	6	38	41%	1	1	1	1	0	3
11	6	25	75%	0	1	2	5	0	2
12	5	31	60%	2	0	2	8	0	2
H30. 1	7	40	70%	1	0	1	4	0	0
2	5	25	63%	1	0	2	2	0	0
3	6	30	42%	1	0	1	5	0	3
計	68	374		19	4	11	28	2	18
月平均	5.6	31.1	59%	1.5	0.3	0.9	2.3	0.1	1.5

更新認定申請代行数

H29.4	1
5	1
6	7
7	7
8	7
9	1
10	1
11	5
12	4
H30.1	3
2	4
3	2
計	43
月平均	3.6

認定調査数

H29.4	1
5	1
6	6
7	6
8	7
9	1
10	1
11	4
12	4
H30.1	2
2	4
3	1
計	38
月平均	3.2

## 看護職員（平成29年度）事業報告

看護主任 安藤あけみ

### 《 事業内容 》

1. 利用者の情報を共有し、統一した看護を提供できるための体制を作る
2. 他職種との連携を図り、協働によるケアの提供ができる

### 《 実績 》

- ・入所者健診 胸部レントゲン 7月 91名実施
- ・インフルエンザ予防接種 11月 98名実施（ショートステイ利用者2名含む）
- ・往診 嘱託医回診 8回/月（火・金）  
 関西サナトリウム 4週間毎  
 近藤泌尿器科 4週間毎（2月26日の往診で終了）  
 ないとう眼科 3か月毎  
 ファミリー歯科 週に2回（月 水）
- ・医療的な管理（平成30.3.31現在）
 

バルンカテーテル留置 8名	インスリン注射 1名
経管栄養 8名	ストマ 1名
褥瘡 2名	ペースメーカー 2名
医療的ケア包括指示書 1名	
- ・感染症対策
 

MRSA 保菌者（痰） 1名	ESBL 保菌者（尿1名）（痰1名）
緑膿菌保菌者（痰） 1名	期間中インフルエンザ罹患者 1名
結核追跡調査の必要な方（結核患者と同室）	4名
- ・平成29年度入院者人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	4	13	4	5	4	4	2	1	4	3	5	6

- ・看護職員外部研修参加
 

感染症対策 2名	
認知症ケア 1名	
医療的ケアフォローアップ研修	1名

### 《 反省・検討 》

- ・看護師の不足が続いていたが10月になり日々の勤務に3~5名の看護師を配置できるようになった。しかし利用者様の皮膚のトラブルが多く、処置に時間の多くを費やし多忙な日々が続いており、医務室内の体制を整えるための看護マニュアルの見直しなどまで手が届かなかった。
- ・評価できる点として、医師との確認ノートを作成したことで、嘱託医からの指示、診察内容をノートに記入し、看護師間で情報の共有確認ができるようになり指示受けの漏れもすくなくなった。
- ・ショートステイはワークシートの活用で退所時の荷物の入れ忘れも減少し、過去の情報もワークシートや預かり表などで確認し、スタッフ間の連携もできるようになった。

- ・処置の連携が不十分で、状態に合わせた書き換えができておらず創の治癒の遅延となったこともあった。処置表のあり方も問題であるが、看護師個人のスキルの違いや仕事の対する意識の違いが連携の取れない要因になっていると考える。また皮膚トラブルを軽減させるためにも介護職員との皮膚のケアのあり方についての検討が必要と考える。
- ・介護職員とのコミュニケーションは以前より密になり、相談しながらのケアを行う場面も増えてきた。職員間で笑い声も耳にすることも多くなったことは今後のケアの向上にもつながる良い点だと考える。

#### 《 平成30年度に向けて 》

- ・統一したケアができるように医務室内での連携を徹底する。
- ・看護マニュアルの見直し。
- ・処置表の活用方法の検討し処置が適切に行えるようにする。
- ・当日のリーダーを決め責任感を持つことで仕事に対する意識を高める。
- ・研修などに参加し施設内で唯一の医療従事者であることを自覚し、各自のスキルの向上に努める。
- ・積極的に介護職員とコミュニケーションをとり、利用者様の情報交換を図るように努める。また得た情報は看護師間で共有できるようにカンファレンスや医務室会議の開催の回数を増やす。
- ・皮膚トラブルの軽減のため褥瘡予防対策委員会と連携する。

# 管理栄養士（平成29年度）事業報告

管理栄養士 横山晶子

## 《 事業計画 》

1. 低栄養予防・改善を目的に多職種で協議する
2. 終末期の食について考える

## 《 実績 》

1. 低栄養予防・改善を目的に多職種で協議する
  - ・行事食については事業報告（給—1・給—2）参照
  - ・「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類2013（とろみ）」に準じるトロミについて共通認識をもった。
  - ・経口維持加算について、介護支援専門員のプラン作成・介護職による経過記録が充実された。

### 加算実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
経口維持	12	12	12	6	6	5	7	8	8	8	8	11
療養	720	703	620	619	618	600	620	597	543	496	448	496

※療養食は延べ人数。療養食の内容は糖尿病食及び減塩食。

## 2. 終末期の食について考える

- ・入所当日本人、家族から1日の生活の流れを中心に基本的な食生活及び嗜好について聞き取りをすることにより、情報把握に努めた。
- ・介護職より食事摂取に疲れる利用者に分量食に変更する提案があり、誤嚥のリスクが減少したように思われる。

## 《 反省・検討 》

- ・体重減少についての介護・家族の意識が高まって、低栄養改善に向けた提案事項が増えた。また、本館2階及び北館2階の水分摂取量が少なかったが、今年度は目標を達成した利用者が増えた。ただ、給食委員会で薄いトロミ・中間のトロミ・濃いトロミのお茶を確認したが、トロミの濃度に差があった。トロミ剤を計量スプーン使用して量の統一、更には毎年確認が必要と思われる。
- ・終末期について、2週間毎のモニタリングは介護・看護の話し合いがあり、情報共有ができた。

## 《 平成30年度に向けて 》

- ・誤嚥性肺炎での入院は平成28年度減少、平成29年度増加となった。更には誤嚥事故が8件、異食事故が1件と重大事故が多数発生した。早急に多職種が食事摂取状況の観察力と改善への提案力を培う必要性を感じるため、以下の通りの次年度は事業計画とする。
  1. 経口維持加算の活用（食事の観察力を向上とする目的）
  2. 低栄養改善・予防（栄養ケアプランの内容のレベルアップ）
  3. 給食委員会活動の見直し（喫食している職員の意見抽出）

特養 主な行事食 (おやつを含む)

平成29年度

月・日	行事	献立
4月 2日	お花見弁当	ちらし寿司・鮭の幽庵焼き・だし巻き玉子・ぬた和え・フライ スパサラダ・ミートボール・炊き合わせ・フルーツ・甘味 屋台:パンダ焼き・ポップコーン・桜茶・綿菓子
5月 1日	創立記念日	炊き込み中華炒飯・フーヨーハイ・油淋鶏・大学芋・エビマヨ 焼豚・エビチリ・デザートバイキング
5月 5日	端午の節句	ちらし寿司・ほうれん草のおかか和え・南瓜の天麩羅 みたらし団子風デザート・赤だし汁(豆腐)
5月 14日	母の日	シーフードパエリア・ミニコロケ・野菜サラダ・季節の和菓子・スープ
6月 7日	お楽しみ食	焼肉
6月 18日	父の日	助六寿司・鶏の竜田揚げ・小松菜のお浸し・フルーツ寒天・赤だし
6月 24日	味めぐり	メキシコ:チリコンカンライス・かぼちゃと豆のサラダ フラン風・レタスのサラダ
7月 7日	七夕	鮭の親子ちらし寿司・ミニ鱧の湯引き・星のコロケ・2色そうめん 天の川ゼリー
7月 25日	土用の丑の日	うな井・焼きなす・四季の羊羹・茶そば
7月 27日	お楽しみ食	プリンアラモード
8月 20日	盆踊り	アイスデザート
9月 19日	敬老会	花型散らし寿司とにぎり寿司盛り合わせ・天麩羅の盛り合わせ・ 茶碗蒸し・果物・赤だし・紅白饅頭
10月 13日	十三夜	里芋ご飯・秋刀魚の塩焼き・大豆煮・洋ナシ缶・ごぼうのみそ汁
10月 17日	秋祭り	収穫祭:家族協賛:柿の天麩羅・青梗菜と小松菜のサラダ さつま芋のポタージュ・おでん・とうがんの煮物等
11月 15日	味めぐり	シンガポール:シンガポールヌードル・マンゴープリン 玉ねぎのスープ
11月 22日	お楽しみ食	クレープ
12月 25日	クリスマス食	サンドウィッチ・鶏の丸焼き・フレッシュサラダ・ポタージュ クリスマスケーキ
12月 27日	もちつき	もち・おしるこ
平成29年 1月 1日	おせち	赤飯・ブリの照り焼き・お煮しめ・厚焼き玉子・数の子 黒豆・白豆・伊達巻・三色なます・金平ごぼう・栗きんとん
1月 17日	非常食体験	介護職の非常食作り体験(親子丼)
2月 2日	節分	巻きずし・炒り大豆と鰯の盛り合わせ・フルーツ・赤だし
2月 8日	味めぐり	今治市:焼豚玉子丼・いもたき・ミニじゃこ天うどん
3月 3日	桃の節句	海鮮ちらし寿司・茶碗蒸し・菜の花の辛し和え・ひし型ゼリー・汁物
3月 23日	味めぐり	愛知県:かしわめし・きしめん・豆腐の田楽・イチゴのムース

月・日	行事	献立
4月 3日 ～ 8日 21日	花見弁当 おやつ作り	豪華幕の内弁当・汁物 三色団子
5月 19日	回転寿司	実演による回転ずし
6月 6日	お楽しみ食	お好み焼き
7月 14日	夏祭り	パンダ焼き・クリームソーダー・ポップコーン
8月 10日 24日	中華オードブル お楽しみ食	中華おこわ・焼売・餃子・青梗菜のナムル・杏仁豆腐 エノキのスープ・大学芋 割り子そば(小エビの天麩羅・大根おろし・薬味) みかん缶・おにぎり
9月 18日～19日 22日 25日	敬老週間 秋分の日 お楽しみ食	豪華幕の内弁当・汁物 おはぎ 焼肉・おにぎり・香の物
10月 9日	運動会	ミニあんぱん
11月 16日	回転寿司	実演による回転ずし
12月 22日～23日 25日 27日 28日	クリスマス クリスマス食 餅つき 寄せ鍋	クリスマスケーキケーキ サンドウィッチ・鶏の丸焼き・フレッシュサラダ・ポタージュ クリスマスケーキケーキ もち・おしるこ 寄せ鍋・雑炊・香の物・みかん
平成29年 1月 18日 16日	お楽しみ食 回転ずし	すき焼き マリノポリス出張サービス
2月 4日	お楽しみ食	水炊き
3月 3日 14日 20日	お茶会 ホワイトデー 春分の日	和菓子・お抹茶・甘酒 豆乳ブランマンジェ おはぎ



月 別 栄 養 所 要 量

(1日当たり)

平成29年度

月	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂 質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミンC (mg)
4	1513	61.4	35.1	560	9.9	112
5	1509	60.4	35.7	543	9.4	110
6	1516	58.8	36.9	549	9.2	115
7	1505	60.1	34.8	518	9.2	112
8	1504	59.5	36.1	542	9.4	111
9	1500	59.3	35.6	551	10	105
10	1500	58.7	34.5	572	10	107
11	1512	60.5	35.0	535	9.5	101
12	1518	60.7	37.0	563	9.8	104
1	1525	61.0	36.1	554	9.5	102
2	1523	60.0	35.0	568	9.3	112
3	1517	59.6	36.5	539	9.3	112
平均	1512	60.0	35.7	550	9.5	109
施設 基準	1500	60.0	38	600	6.0	100

食 品 群 別 摂 取 量

(1日あたり)

平成29年度

食 品 群	施 設 基 準	栄 養 実 績
穀 類	180	172
芋 類	45	42
砂 糖 類	10	13
油 脂 類	8	7
大 豆 類	72	88
緑 黄 色 野 菜	120	116
そ の 他 野 菜	200	184
果 実 類	90	79
海 藻 類	6	6
魚 介 類	60	60
獣 鳥 肉 類	70	65
卵 類	30	29
乳 製 品	200	210

非常食備蓄状況

保管場所

(本館2階 私物庫)

備蓄品	数量	賞味期限
ふっくらパン(24缶入り)コーヒーナッツ味	3	2020.4
災害用 白飯 50食 入り	6	2022.1
災害用 白飯 50食 入り	5	2020.4
災害用 白粥 50食 入り	7	2022.1
ハウスカレー 30食入り	7	2020.8
どんぶり党 親子丼 48食	8	2018.7
五目ごはん 50食 入り	6	2021.8
ハウスカレー 30食入り	7	2020.8
飲料水 20リットル	6	

喫食対象者

特養	100
ショート	20
デイサービス	25
職員	30
地域の方	20
合計	195

事業別給食数

平29年度  
(食数)

		特 養			ショートステイ	デイ サービス	職 員 等	合 計
		常食	濃厚 流動 食	合計				
4	朝	2,718	130	2,848	485	458	796	3,333
	昼	2,709	64	2,773	591			4,618
	夕	2,716	131	2,847	502			3,349
5	朝	2,671	145	2,816	506	485	440	3,322
	昼	2,660	62	2,722	615			4,262
	夕	2,663	145	2,808	515			3,323
6	朝	2,523	152	2,675	477	493	416	3,152
	昼	2,518	84	2,602	587			4,098
	夕	2,527	153	2,680	491			3,171
7	朝	2,629	152	2,781	475	537	558	3,256
	昼	2,618	93	2,711	578			4,384
	夕	2,629	155	2,784	490			3,274
8	朝	2,685	152	2,837	562	489	700	3,399
	昼	2,683	90	2,773	667			4,629
	夕	2,687	151	2,838	578			3,416
9	朝	2,630	146	2,776	554	511	596	3,330
	昼	2,621	61	2,682	660			4,449
	夕	2,627	148	2,775	574			3,349
10	朝	2,760	184	2,944	559	507	594	3,503
	昼	2,759	93	2,852	674			4,627
	夕	2,763	186	2,949	572			3,521
11	朝	2,682	201	2,883	527	503	588	3,410
	昼	2,676	113	2,789	639			4,519
	夕	2,680	203	2,883	644			3,527
12	朝	2,767	217	2,984	520	532	590	3,504
	昼	2,762	124	2,886	633			4,641
	夕	2,760	217	2,977	541			3,518
1	朝	2,787	188	2,975	517	507	602	3,492
	昼	2,778	97	2,875	627			4,611
	夕	2,790	189	2,979	526			3,505
2	朝	2,509	172	2,681	537	524	598	3,218
	昼	2,509	66	2,575	644			4,341
	夕	2,507	174	2,681	545			3,226
3	朝	2,698		2,698	560	598	695	3,258
	昼	2,690		2,690	676			4,659
	夕	2,694		2,694	579			3,273
合計	朝	32,059	1,839	33,898	6,279	524	7,173	40,177
	昼	31,983	947	32,930	7,591			48,218
	夕	32,043	1,852	33,895	6,557			40,452
1日当たり	朝	88	5	93	17	20	23	110
	昼	88	3	90	21			154
	夕	88	5	93	18			111

# ショートステイ（平成29年度）事業報告

生活相談員 林大輔

## ＜ 事業内容 ＞

1. 他の事業所との連携・情報交換を強化
2. 年間平均稼働率107%の達成
3. 余暇時間の充実を図る・温もりのある居室環境を提供
4. 地域に進出
5. チームケアの充実

## ＜ 実績 ＞

\*平成28年度稼働率：102.87%

\*平成29年度稼働率：105.08%

### 1. 他の事業所との連携・情報交換を強化

- ・サービス担当者会議への参加
  - ・参加55件・照会43件・不参加32件※（照会⇒ご家族の都合により日程調整困難）
- ・相談員会 定例会議・フレッシュ相談員会 計 4回 参加
- ・緊急時のベッド調整・受け入れや身寄りのない方の受け入れなどを行った。  
虐待事例についての受け入れはなかった。

### 2. 年間稼働率107%の達成

- ・残念ながら年間平均稼働率105.08%と目標稼働率107%は達成できなかったが、平成28年度よりは稼働率が上がっているため、平成30年度は到達できるよう努力する。

新規契約者数	退所者		
	当施設入所	他施設入所	死亡
44名	9名	8名	10名

### 3. 余暇時間の充実・温もりのある居室環境

- ・レクリエーションについては、ほぼ毎日午後から行っており、体操など身体を動かす機会を設けている。
- ・外出の機会として、神出文化祭拝観。初詣などに外出することができた。
- ・ソファなどを設置し、くつろげるスペースを確保している。
- ・特養入所待機者が中心ではあるが、2床程ロングショートでの受け入れを行っている。

### 4. 地域に進出

- ・前年度と同様、神出文化祭において作品を作製し展示を行う。

## 5. チームケアの充実

- ・ご利用者の情報をケアマネ・ご家族・関係職員との間で確実に伝達、共有が出来るよう努めてきた。
- ・ヒヤリハットについても気づいたその場で報告し、事故につながらないように対策・改善策を考え・職員間で共有するようになっている。
- ・忘れ物については極力無くなるよう努力してきた。持参物はできるだけ少なくして頂けるよう利用者・ご家族への協力依頼、忘れ物についても一つのボックスに一まとめにするなどして忘れ物があるかどうか、職員全員がわかりやすくなるようにした。

### 《 反省・検討 》

- ・年間平均稼働率を107%に目標設定していたが、本年度は105.08%と下回る結果となった。しかしながら、平成28年度が102.87%であったので稼働率は前年度に比べて上昇している。
- ・外出する機会が平成28年度に比べて少なかった。

### 《 平成30年度に向けて 》

- ・引き続き、ケアマネジャーとの連絡・報告を図り、新規利用希望者の紹介に繋がるようにしていきたい。
- ・特養相談員と連携を図りながら特養空きベッドの有効活用を行い、稼働率を上げていく。
- ・定期利用者も増えケアにも満足いただけている声も多く聞かれている。しかしまだまだ至らないところもありご利用者にご迷惑をかけている事もある為、介護職を初め他専門職との連携を今まで以上にとり、個々のご利用者に合わせたケアが出来るようにしていきたい。
- ・平成30年4月の介護保険制度改正に伴い、新しい加算の取り組み（中重度高齢者の積極的な受入、夜間の医療処置への対応の強化等）をしていく。

平成29年度期入所生活介護 稼働率、利用者人数及び平均介護度

	性別	平成28年																		平成29年						合計	
		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月			
		人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数
要介護1	男	5	49	4	50	3	54	3	53	5	65	4	70	5	70	6	74	7	89	5	58	5	60	4	37	56	729
	女	7	67	8	84	9	81	9	78	9	93	9	107	8	107	9	95	9	94	8	110	7	65	9	84	101	1,065
	計	12	116	12	134	12	135	12	131	14	158	13	177	13	177	15	169	16	183	13	168	12	125	13	121	157	1,794
要介護2	男	2	6	3	16	3	16	4	20	5	22	3	22	2	17	2	17	4	36	3	29	3	34	3	32	37	267
	女	14	126	13	137	10	97	8	95	9	106	10	108	12	117	12	126	11	109	11	123	10	88	12	133	132	1,365
	計	16	132	16	153	13	113	12	115	14	128	13	130	14	134	14	143	15	145	14	152	13	122	15	165	169	1,632
要介護3	男	5	50	7	76	8	76	5	75	6	72	6	49	3	18	3	30	3	12	8	55	5	63	3	48	62	624
	女	11	135	10	112	9	120	10	131	12	174	15	157	15	186	12	148	14	168	13	150	13	183	15	217	149	1,881
	計	16	185	17	188	17	196	15	206	18	246	21	206	18	204	15	178	17	180	21	205	18	246	18	265	211	2,505
要介護4	男	1	5	1	5	2	13	2	11	1	6	1	5	1	5	3	10	3	9	3	23	4	32	4	44	26	168
	女	11	144	11	109	11	119	7	85	9	87	9	116	8	125	9	120	9	86	7	67	8	101	7	73	106	1,232
	計	12	149	12	114	13	132	9	96	10	93	10	121	9	130	12	130	12	95	10	90	12	133	11	117	132	1,400
要介護5	男	1	5	1	3	1	3	2	16	2	34	3	24	3	9	2	6	3	6	1	3	2	7	2	4	23	120
	女	1	8	2	14	1	8	1	8	1	8	2	14	2	14	2	15	2	14	2	9	2	15	2	17	20	144
	計	2	13	3	17	2	11	3	24	3	42	5	38	5	23	4	21	5	20	3	12	4	22	4	21	43	264
要支援1	男											1	2	1	4	1	2							1	2	4	10
	女																									0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	4	10
要支援2	男													1	5	1	2									2	7
	女	1	4	3	13	1	4	2	5	2	6			1	3	1	4	2	16	1	4					14	59
	計	1	4	3	13	1	4	2	5	2	6	0	0	1	3	2	9	3	18	1	4	0	0	0	0	16	66
総合計	男	14	115	16	150	17	162	16	175	19	199	18	172	15	123	18	144	21	154	20	168	19	196	17	167	210	1,925
	女	45	484	47	469	41	429	37	402	42	474	45	502	46	552	45	508	47	487	42	463	40	452	45	524	522	5,746
	計	59	599	63	619	58	591	53	577	61	673	63	674	61	675	63	652	68	641	62	631	59	648	62	691	732	7,671
平均介護度	男	2.4	2.2	2.5	2.3	2.7	2.4	2.8	2.5	2.5	2.6	2.6	2.3	2.5	1.8	2.4	1.9	2.5	1.7	2.6	2.3	2.7	2.4	2.7	2.6	2.6	2.3
	女	2.6	2.8	2.6	2.6	2.6	2.7	2.4	2.6	2.5	2.6	2.7	2.6	2.6	2.7	2.6	2.7	2.6	2.6	2.6	2.4	2.7	2.8	2.6	2.6	2.6	2.6
	計	2.6	2.7	2.6	2.5	2.6	2.6	2.5	2.6	2.5	2.6	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.4	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6
稼働率	99.83%		99.84%		98.50%		93.06%		108.55%		112.33%		108.87%		108.67%		103.39%		101.77%		115.71%		111.45%		105.08%		

# デイサービス（平成 29 年度）事業報告

生活相談員 山野さとみ

## 《 事業内容 》

1. サービスの質の向上
2. 気づきの出来る介護職員の養成と介護技術の向上
3. 申し送りにて処遇、介護の統一
4. デイサービスフロアにおける環境の整備

## 《 実績 》

\*平成28年度稼働率：56.57%

\*平成29年度稼働率：57.51%

### 1. サービスの質の向上

- ・サービス提供時間を見直し、利用者のニーズに目的に合わせた時間の提供を各居宅事業所に配布し、4名の新規利用者に繋がる。
- ・行事、外出の計画を見直し、利用者からの希望を聞き、行事としては回転寿司、外出では、魚の棚買物ツアー、淡路ハイウェイオアシスなどを実施。
- ・アンケートをもとに、利用者、家族の声を聞き、サービスの提供に努めた。
- ・利用者の意欲を引き出すために、「自分らしく、生き生きと暮らしを続ける」ノートを制作。内容としては、利用者がデイサービス利用中に取り組みたい目標を自ら設定し、その目標に取り組めるよう職員が援助するものです。
- ・ケアマネジャーにデイサービスの取り組みを知ってもらう為、季節の食事会を開催し、参加の呼びかけを行い、2事業所が参加した。

### 2. 気づきの出来る職員の養成と介護技術の向上

- ・新人職員の入れ替わりが多かった。その中でも中堅職員は、新人職員の指導を行い、結果として、お互いの技術向上が図られるだけでなく、注意できる関係作りの構築もできた。

### 3. 申し送りにて処遇、介護の統一

- ・毎日15:00に申し送りを開催。その際に利用者の様子を職員間で情報交換し、介護面でのケアの統一を図る。

### 4. デイサービスフロアにおける環境の整備

- ・和室の使用が少なかったため、以前フローリングへの変更を行った。また、その場所で利用者が気軽にマッサージチェアや足温器を使用できるよう備品を設置。その甲斐もあり、利用者同士が気兼ねすることなく談話できるスペースへと変わった。
- ・パントリー付近の整備について、今期は実施せず。

## 《 反省・検討 》

- ・サービス提供時間の見直しにより、利用者のニーズに添ったサービスの提供を行うことにより、ケアマネジャーからの問い合わせも多く、新規利用者の獲得に繋がりがやすくなったが、入所や長期入院、ご利用者の死亡等により、成果には繋がらなかった。

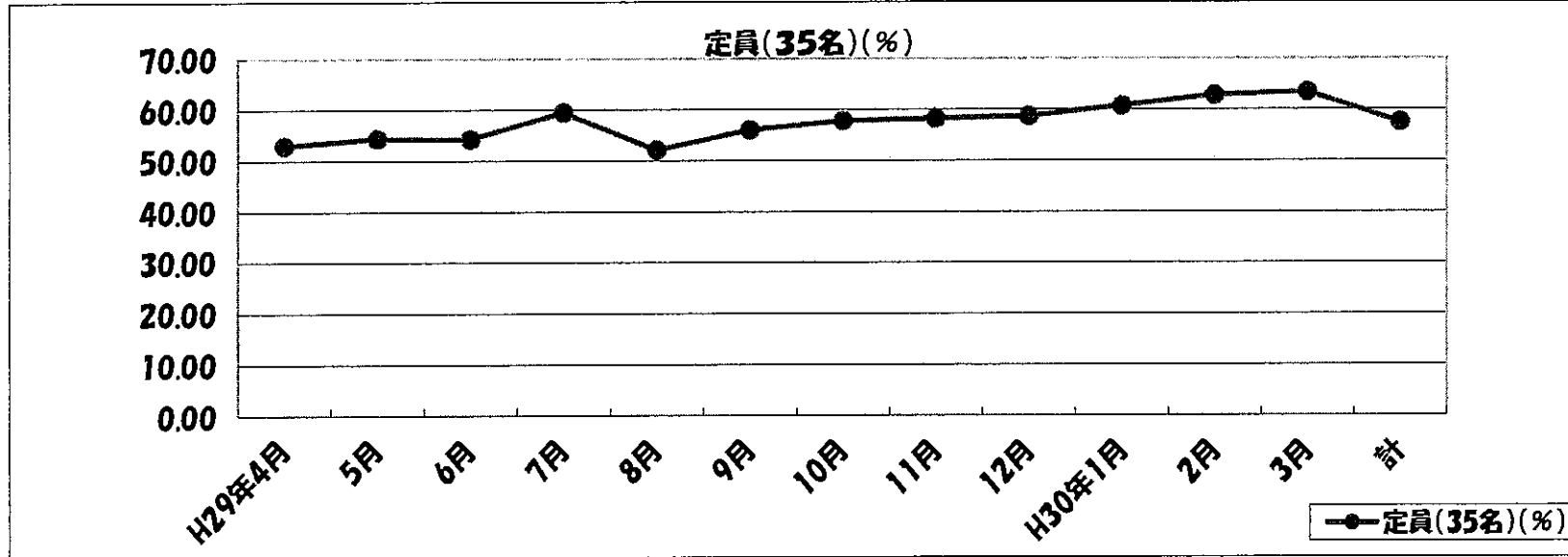


《 平成30年度に向けて 》

- ・職員間のコミュニケーションを今以上に図っていき、ご利用者と密に関わりを持って明るく、楽しい職場環境の構築。
- ・ご利用者が明るく楽しく過ごすことが、誰にでも伝わるような雰囲気の日サービスを構築する。
- ・個別ケア、個別レクなどを取り入れ、多種多様化を目指す。
- ・「生き生きと自分らしく」を目標に、介護計画の統一を図り、ご利用者のニーズに合ったサービスを提供していく。

## 平成29年度デイ利用実績

	実施日	登録人数			実人数			延べ人数			1日平均 (%)			定員 (35名) (%)
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
H29年4月	25	13	43	56	12	40	52	90	373	463	3.60	14.92	18.52	52.91
5月	27	12	42	54	11	41	52	99	415	514	3.67	15.37	19.04	54.39
6月	26	12	41	53	11	40	51	103	391	494	3.96	15.04	19.00	54.29
7月	26	11	42	53	11	40	51	111	430	541	4.27	16.54	20.81	59.45
8月	27	12	42	54	12	40	52	124	368	492	4.59	13.63	18.22	52.06
9月	26	15	43	58	14	43	57	127	383	510	4.88	14.73	19.62	56.04
10月	26	14	43	57	12	42	54	127	399	526	4.88	15.35	20.23	57.80
11月	26	16	44	60	14	43	57	138	392	530	5.31	15.08	20.38	58.24
12月	26	16	45	61	13	41	54	129	405	534	4.96	15.58	20.54	58.68
H30年1月	24	15	43	58	12	41	53	119	391	510	4.96	16.29	21.25	60.71
2月	24	15	44	59	13	42	55	105	422	527	4.38	17.58	21.96	62.74
3月	27	15	47	62	11	44	55	134	465	599	4.96	17.22	22.19	63.39
計	310	166	519	685	146	497	643	1,406	4,834	6,240	4.54	15.61	20.13	57.51



平成29年度 デイサービス介護度別利用実績

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
H29 4月	人数	4	4	14	17	7	5	1	52
	延人数	14	31	109	160	100	44	5	463
5月	人数	5	3	14	16	7	5	2	52
	延人数	19	34	135	168	88	48	22	514
6月	人数	4	3	14	15	7	7	1	51
	延人数	10	29	137	153	97	64	4	494
7月	人数	3	3	14	16	6	7	2	51
	延人数	14	29	147	172	95	76	8	541
8月	人数	4	3	15	14	5	8	3	52
	延人数	16	30	146	135	72	72	21	492
9月	人数	5	5	12	19	5	8	3	57
	延人数	16	33	114	193	72	59	23	510
10月	人数	5	5	10	18	6	7	3	54
	延人数	23	41	97	202	85	55	23	526
11月	人数	5	5	11	18	6	8	4	57
	延人数	18	44	106	201	85	50	26	530
12月	人数	3	6	11	18	6	6	4	54
	延人数	9	50	105	211	83	48	28	534
H30 1月	人数	2	6	10	20	6	5	4	53
	延人数	8	50	83	219	83	40	27	510
2月	人数	0	6	11	20	9	7	2	55
	延人数	0	44	99	234	96	46	8	527
3月	人数	2	5	11	19	7	7	4	55
	延人数	12	45	106	251	84	78	23	599
合 計	人数	42	54	147	210	77	80	33	643
	延人数	159	460	1,384	2,299	1,040	680	218	6,240

※実施 310 日です。

前 年 度	実人数	51	64	166	209	91	69	19	669
	延人数	262	553	1,526	2,057	1,098	602	80	6,178
対前年増減		▲ 103	▲ 93	▲ 142	242	▲ 58	78	138	62

一日あたり

0.200

平成29年度利用実績（曜日別）

		月	火	水	木	金	土	計
H29年4月	日数	4	4	4	4	4	5	25
	延人数	99	57	74	66	70	97	463
	平均	24.75	14.25	18.50	16.50	17.50	19.40	18.52
5月	日数	5	5	5	4	4	4	27
	延人数	133	69	99	65	75	73	514
	平均	26.60	13.80	19.80	16.25	18.75	18.25	19.04
6月	日数	4	4	4	5	5	4	26
	延人数	99	57	78	84	101	75	494
	平均	24.75	14.25	19.50	16.80	20.20	18.75	19.00
7月	日数	5	4	4	5	4	4	26
	延人数	130	64	80	76	86	105	541
	平均	26.00	16.00	20.00	15.20	21.50	26.25	20.81
8月	日数	4	5	5	5	4	4	27
	延人数	98	75	83	92	59	85	492
	平均	24.50	15.00	16.60	18.40	14.75	21.25	18.22
9月	日数	4	4	4	4	5	5	26
	延人数	102	57	73	80	92	106	510
	平均	25.50	14.25	18.25	20.00	18.40	21.20	19.62
10月	日数	5	5	4	4	4	4	26
	延人数	129	76	81	75	69	96	526
	平均	25.80	15.20	20.25	18.75	17.25	24.00	20.23
11月	日数	4	4	5	5	4	4	26
	延人数	111	64	97	100	73	85	530
	平均	27.75	16.00	19.40	20.00	18.25	21.25	20.38
12月	日数	4	4	4	4	5	5	26
	延人数	120	53	83	72	94	112	534
	平均	30.00	13.25	20.75	18.00	18.80	22.40	20.54
H30年1月	日数	4	4	4	4	4	4	24
	延人数	113	64	82	75	74	102	510
	平均	28.25	16.00	20.50	18.75	18.50	25.50	21.25
2月	日数	4	4	4	4	4	4	24
	延人数	114	71	81	69	97	95	527
	平均	28.50	17.75	20.25	17.25	24.25	23.75	21.96
3月	日数	4	4	4	5	5	5	27
	延人数	108	81	91	86	115	118	599
	平均	27.00	20.25	22.75	17.20	23.00	23.60	22.19
計	日数	51	51	51	53	52	52	310
	延人数	1,356	788	1,002	940	1,005	1,149	6,240
	平均	26.59	15.45	19.65	17.74	19.33	22.10	20.13

## ケアプランセンター（平成29年度）事業報告

介護支援専門員 中嶋健一郎

### 《 事業内容 》

1. スピード感、聴く力、調整力、発信力、交渉力、観察力を常に意識して業務を遂行する
2. 身近な「福祉相談窓口」の相談者（ケアマネジャー）になる
3. 日常生活支援総合事業開始に伴う制度変更への対応を迅速に行う

### 《 実績 》

\*平成28年度稼働率：76.68%

\*平成29年度稼働率：84.11%

1. スピード感、聴く力、調整力、発信力、交渉力、観察力を常に意識して業務を遂行する
  - ・利用者、家族の思いを尊重しながら、自立支援を念頭にプランの作成に努めた。
  - ・1ヶ月当たりの相談者件数が平均で3名以上となり、毎月のケアプラン件数については本年度末には登録件数上限に達した。
2. 身近な「福祉相談窓口」の相談者（ケアマネジャー）になる
  - ・相談件数は、各あんしんすこやかセンターから定期的に相談があり、契約者数は増えた。また、病院や他施設からの相談や地域からも相談を受けており、職員も2名から3.5名（常勤換算）となり、特定事業所加算を算定することとなった。
3. 日常生活支援総合事業開始に伴う制度変更への対応を迅速に行う
  - ・日常生活支援総合事業に移行した利用者に対して問題なくスムーズに移行できた。

### 《 反省・検討 》

- ・年度初めより各方面からの相談件数が増え、毎月のケアプラン件数は伸びたが、職員の増員に伴い稼働率が低下した。ケアプラン件数は増加したものの、年間稼働率は84.11%であった。

### 《 平成30年度に向けて 》

- ・地域包括ケアネットワークの一員であるケアマネジャーとしての自覚を持ち、各あんしんすこやかセンターや病院、施設などのネットワークを構築して相談に応じていき、年間稼働率が90%超を目標とする。

平成29年度 ケアプランセンター実績報告書

(平成29年4月～平成30年3月)

NO. 1

項目 月日	利用者実人数		相談延人数				支援内容						
	要介護 1・2・3・4・5	要支援 1・2	電話	来所	訪問	その他	担当者 会議	モニタ リング	経過報告	サービス 事業者連絡	利用変更 利用追加	サービス 新規利用	
4月	46	40	45	8	83	4	20	88	6	19	1	2	
5月	48	45	52	4	85	5	13	88	3	19	5	7	
6月	49	44	48	5	77	10	12	91	8	12	3	1	
7月	49	43	46	6	80	13	11	90	0	17	4	1	
8月	54	41	63	10	91	9	13	96	1	17	1	0	
9月	60	41	61	7	91	8	13	99	5	18	1	4	
10月	59	42	66	6	112	7	28	109	6	33	7	5	
11月	62	42	58	12	103	11	20	117	11	30	1	4	
12月	63	44	56	13	96	13	14	115	11	16	6	4	
1月	63	40	67	4	120	10	15	124	3	21	6	2	
2月	61	41	58	10	103	8	13	113	4	31	5	1	
3月	69	40	64	13	101	9	19	109	1	8	2	0	
合計	683	503	684	98	1142	107	191	1239	59	241	42	31	
月平均	56.9	41.9	57.0	8.2	95.2	8.9	15.9	103.3	4.9	20.1	3.5	2.6	
前年度	合計	404	190	536	116	638	115	97	855	99	422	113	51
	月平均	33.7	15.8	44.7	9.7	53.2	9.6	8.1	71.3	8.3	35.2	9.4	4.3

37

平成29年度 ケアプランセンター実績報告書

(平成29年4月～平成30年3月)

NO. 2

項目 月日	支 援 内 容										研修会 参加	連絡会 参加	地域ケア 会議 参加	
	サービス 内容相談	介護相談	申 請 手続き	ケアプラン 作成 帳 票	住宅改修 福祉用具 相談	施設 入所相談	入院相談	退院 相談 退所	新規 契約	その他				
4 月	3	1	6	1	5	3	1	3	5	22	0	0	0	
5 月	1	4	14	1	6	2	6	2	3	15	0	0	0	
6 月	4	2	4	0	2	4	1	7	3	9	0	0	1	
7 月	3	2	13	0	3	1	5	2	2	8	0	0	0	
8 月	0	0	12	0	4	3	5	1	2	23	0	1	0	
9 月	6	4	3	1	8	1	4	4	5	18	2	1	0	
10 月	13	0	6	0	4	5	0	0	2	28	1	0	0	
11 月	16	0	8	2	0	1	0	0	5	37	2	0	1	
12 月	4	3	7	1	2	0	5	3	3	92	1	2	0	
1 月	4	3	8	1	4	0	1	0	1	84	2	0	0	
2 月	9	1	4	2	8	4	1	3	4	65	4	0	2	
3 月	6	1	9	0	0	2	1	1	7	37	5	0	0	
合 計	69	21	94	9	46	26	30	26	42	438	21	4	4	
月平均	5.8	1.8	7.8	0.8	3.8	2.2	2.5	2.2	3.5	36.5	1.8	0.3	0.3	
前 年 度	合計	207	74	81	89	56	26	19	31	14	228	3	11	11
	月平均	17.3	6.2	6.8	7.4	4.7	2.2	1.6	2.6	1.2	19.0	1.8	0.9	0.9

# 平成 29 年度 居宅介護支援事業

居宅介護支援費 実績報告書 (平成 29 年 4月～平成 30 年 3月)

月日	項目 ケアプラン 契約件数	支 援 費 請 求 件 数
4 月	53 件	46 件
5 月	54 件	48 件
6 月	56 件	49 件
7 月	55 件	49 件
8 月	59 件	54 件
9 月	63 件	60 件
10 月	63 件	59 件
11 月	64 件	62 件
12 月	69 件	63 件
1 月	70 件	63 件
2 月	70 件	61 件
3 月	73 件	69 件
合 計	749 件	683 件
月平均	62 件	56.9 件

前 年 度	合 計	536 件	509 件
	月平均	44.7 件	42.4 件

契約者数の状況 (平成 29 年 4月～平成 30 年 3月)

月	新 規 契 約 者 数	契 約 終 了 者 数						合 計 ( 人 )
		特 養 入 所	老 健 入 所	療 養 型 入 院	死 去	介 護 予 防 移 行	そ の 他	
4 月	4	0	0	0	1	1	0	2
5 月	5	2	0	0	1	1	0	4
6 月	0	0	0	0	0	0	1	1
7 月	0	0	0	0	0	0	0	0
8 月	1	2	0	0	0	0	0	2
9 月	5	0	0	0	0	0	0	0
10 月	4	0	0	0	1	0	0	1
11 月	4	0	0	0	0	0	0	0
12 月	4	0	0	0	2	0	0	2
1 月	2	0	0	0	1	0	0	1
2 月	4	1	0	0	1	0	0	2
3 月	2	0	0	0	2	0	1	3
合 計	35	5	0	0	9	2	2	18



## 平成 29 年度 介護予防支援事業

居宅介護支援費 実績報告書 (平成 29 年 4月～平成 30 年 3月)

月日	項目 ケアプラン 契約件数	支 援 費 請 求 件 数
4 月	42 件	40 件
5 月	48 件	45 件
6 月	46 件	44 件
7 月	47 件	43 件
8 月	45 件	41 件
9 月	46 件	41 件
10 月	46 件	42 件
11 月	44 件	42 件
12 月	44 件	44 件
1 月	44 件	40 件
2 月	43 件	41 件
3 月	43 件	40 件
合 計	538 件	503 件
月平均	44.8 件	41.9 件

前 年 度	合 計	328 件	303 件
	月平均	27.3 件	25.3 件

受託者数の状況 (平成 29 年 4月～平成 30 年 3月)

月	新規受託者数	受 託 終 了 者 数				
		要 介 護 に 変 更	非 該 当 に 変 更	死 去	そ の 他	合 計 (人)
4 月	0	1	0	0	1	2
5 月	0	1	0	0	0	1
6 月	2	0	0	0	0	0
7 月	0	1	0	0	0	1
8 月	1	0	0	0	0	0
9 月	0	1	0	0	0	1
10 月	1	0	0	0	0	0
11 月	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0
1 月	2	1	0	0	1	2
2 月	3	0	0	0	0	0
3 月	2	0	0	0	0	0
合 計	11	5	0	0	2	7

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	虐待防止・身体拘束廃止委員会
活動方針	身体拘束を増やさない、減らす介護を実践する
計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例会議の開催(毎月第1金)</li> <li>2. 年2回虐待防止研修会の開催(1回1時間)</li> <li>3. 毎月末に身体拘束対象者モニタリング表を配布し、 それに基づき委員会で検討</li> <li>4. 不適切ケアの点検・撲滅 (数項目ずつ朝礼時に唱和し意識付け)</li> <li>5. 良いケアについて発表し合う</li> </ol>
人員構成	<p>( 委員長 ) 黒木 俊雄</p> <p>特養・SS相談員 ケアマネ 看護師 特養介護各フロア1名 デイサービス職員1名</p>
報 告	<p>《29.4.7》委員会 身体拘束対象者7名(内1名SS利用者)</p> <p>《29.5.12》委員会 身体拘束対象者7名(内1名SS利用者)</p> <p>虐待防止(良いケア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館2階の利用者が入浴することを嫌がっていたが、誘い方が上手かった。</li> <li>・本館1階の職員が利用者を中庭に連れていったこと。</li> <li>・本館2階の居室が整理できてきた。・新入職員の指導が出来ている。</li> <li>・本館1階の利用者が帰りたいと訴えがあった時、施設長が対応してくれた。</li> </ul> <p>《29.6.2》委員会 身体拘束対象者7名(内1名SS利用者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止 良いケアについては、接遇委員会が中心となり発表する。</li> <li>・虐待防止委員会では、今後不適切なケアをあげていく。</li> <li>・不適切なケアを見たら、その場で注意指導していく。</li> </ul> <p>《29.6.14.19.20》虐待防止研修会開催 14日30名、19日45名、20日20名 出席。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待に対する考え方 ・虐待防止の基本 ・演習、検討</li> </ul> <p>《29.7.4》委員会 身体拘束対象者7名(内1名SS利用者)</p> <p>虐待防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館1階家族より不適切な発言があった⇒フロア会議開催</li> <li>・北館1階職員が離床時に不適切な言動があり指導した。</li> <li>・デイサービス職員が段差のある所で車椅子を前向きにして降ろしていたのを聞き、指導した。また、車椅子の操作方法を間違った方法で教えていた為、指導し直した。</li> <li>・苦情処理は家族だけではなく、利用者からのものもあげるべきではないか⇒今後からあげていく。</li> <li>・SS利用者より職員が不適切な言動があったと苦情⇒職員に状況確認、指導</li> </ul> <p>《29.8.4》委員会 身体拘束対象者8名(内1名SS利用者)</p> <p>虐待防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員による北館1階利用者に対する言葉遣いが悪い</li> <li>・職員のおかしいと思える言動は、その場その場で注意していくことが必要。 後日伝えても、本人は分からない。</li> </ul> <p>《29.9.1》委員会 身体拘束対象者7名</p> <p>虐待防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館1階利用者に対する不適切な言葉について⇒家族に謝罪</li> </ul> <p>《29.10.6》委員会 身体拘束対象者7名</p>

委員会名	虐待防止・身体拘束廃止委員会
報告	<p>虐待防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子を押すスピードが速い職員がいる。(本館3名)</li> <li>・車椅子に乗っている北館1階利用者を押す際に、手摺りに接触し傷を作る</li> <li>・入浴の誘導時、車椅子を2台押ししていた(新人職員)⇒その場で注意</li> </ul> <p>≪29.10.21≫委員会</p> <p>北館1階N.O様つなぎ服着用が妥当か検討。</p> <p>≪29.10.23≫委員会</p> <p>北館1階N.O様つなぎ服着用時間延長が妥当か検討。</p> <p>≪29.11.7≫委員会 身体拘束対象者8名</p> <p>虐待防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子を押すスピードが速い職員がいる⇒リスト作成後指導</li> <li>・時々、語尾が強い職員がいる。⇒注意済み。</li> <li>・「～してあげる。」と上から目線的発言あり。⇒注意済み。</li> </ul> <p>≪29.11.8.15.20≫虐待防止研修会開催</p> <p>8日 25名 15日 24名 20日 51名 出席</p> <p>≪29.12.5≫委員会 身体拘束対象者8名</p> <p>虐待防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子を押すスピードが速い職員に対して1名指導済み。他2名は後日。</li> <li>・水分提供する際、立ったまま行っている職員がいた。</li> <li>・北館1階の家族が主人(利用者)を叩いていた。⇒相談員より家族に話してもらおう</li> <li>・留学生が利用者のため口で話していた。</li> </ul> <p>≪30.1.9≫委員会 身体拘束対象者8名</p> <p>虐待防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SS利用者に対して不適切な言葉遣いに対して⇒指導済み。</li> <li>・車椅子を押すスピードが速い職員に対して⇒本館3名の内、2名は指導済み もう1名は近々に行う。</li> </ul>
検討	<p>身体拘束廃止</p> <p>拘束内容は、介護服、ミトン、車椅子安全ベルト、介助時に手足の動きを抑制する、ベッド柵4本柵がある。少しでも解除できるように工夫が見られ、拘束の時間も全体的に場面ごとに限定されるように、少なくなってきたように思われる。しかし、介護服に関しては、終日のまま変更できないままにある為、今後は着用時間を減らせるように、フロア職員全員が意識できるようにしていきたい。</p> <p>後半は、3要件に該当しているかを、詳しく検討している。モニタリングと併わせて今後も継続していく。</p> <p>虐待防止</p> <p>介護経験(介護の資格なし)の浅い職員の不適切な言動、技術の未熟が目立った。本人は、その言動自体が適切か適切でないか判断出来ていない。定期的な教育も必要だが、周りにいる職員が適切でないか判断したならば、その場で注意、アドバイスが必要と感じる。来年度は、介護の未熟な職員を平準レベルまで上げられるような教育が必要である。</p>

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	事故発生防止委員会
活動方針	事故を減らし、未然に防げる職員作り
計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例会議の実施(第4or5月曜 1回/3ヶ月) (重大事故が発生した場合は都度開催)</li> <li>2. 職員必須研修会の開催(年1回) (危険予知訓練を実施)</li> <li>3. ヒヤリ・ハット報告書を増やす</li> <li>4. 緊急時対応(ハイムリック法)の勉強会を開催</li> <li>5. マニュアルの整備</li> </ol>
人員構成	<p>( 委員長 ) 黒木 俊雄</p> <p>特養・SS相談員、ケアマネ、看護1名 特養介護各フロア1名、デイサービス職員1名</p>
報告	<p>《29.5.15》委員会 ・本館1階K・S様の服薬忘れについて</p> <p>《29.5.29》委員会 ・危険予測について</p> <p>《29.7.13.24》事故発生防止研修会 13日 13名 24日 38名 出席 ・薬について</p> <p>《29.7.20》委員会 ・本館2階T・Y様の右第11肋骨骨折について</p> <p>《29.10.27》委員会 ・本館2階T・S様の誤薬について</p> <p>《29.11.27》委員会 ・北館1階H・F様の経管栄養を誤注入について</p> <p>《29.11.12.15.27》委員会 ・誤嚥(窒息)の疑いのある場合の対応方法を復習する。 12日 北館2階 15日 本館2階 27日 本館1階、北館1階</p> <p>《29.12.27》委員会 ・SS H・T様の転倒による左上腕骨折について</p> <p>《29.12.25》委員会 ・本館2階T・T様の異食について</p> <p>《30.1.9》委員会 ・SS T・H様の服薬忘れについて</p>
検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険予知訓練と誤嚥(窒息)の疑いのある人の対応方法の復習会を実施することができた。実施しただけで終わりではなく、それが現場に活かしているか、確認が必要だと思う。</li> <li>・ヒヤリハット件数は前年度より、多く提出出来るようになったが、その内容を全員全員が把握し、意識しながら援助を行っているか確認が必要。 事故報告書の全員への発信は、各フロアに回覧形式で行っているが、年末頃には、床に落ちている(未服薬)の事故が続いた。服薬の仕方の研修会を実施したにも関わらず、同様の事故が続いている。方法を習得させることも大切ではあるが、気持ちにゆとりを持って援助できるようハード面の整備も必要と思われる。</li> <li>・間違った介護を行いがちな、経験年数が浅い職員に対しては、引き続き研修やアドバイスをしていきたい。</li> <li>・各フロアに発信(気を付けていこうと皆に伝えていける)力が必要であり、それが再発予防に繋がると思う。副主任、リーダーが適任だが担当をつけても良いかと考える。</li> </ul>

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	褥瘡防止委員会
活動方針	褥瘡の早期発見と予防に努める
計 画	1.定例会議の実施(毎月第1金曜日) 2.職員向け研修会の開催 3.褥瘡発生時の早期対応 4. 褥瘡発生者のカンファレンス及び予防ケアの確認
人員構成	( 委員長 ) 佐々木 安子  特養相談員 介護主任 ケアマネ 管理栄養士 特養介護各フロア1名 デイサービス職員1名
報 告	1.毎月、第1金曜日に定例報告会を実施。各フロア入所者の皮膚状態、処置、対策など報告検討を行った。 2.年間の褥瘡発症者は下記の通りであった ・H29.4.10 本館T様・左踵部褥瘡発症、8月16日治癒 ・H29.7.5 本館T様・左大転子部褥瘡発症、8月16日治癒 ・H29.7.18 北館Y様・仙骨部褥瘡発症、10月12日治癒 ・H30.1.5 本館M様・左肩関節後部褥瘡発症、1月23日治癒 ・H30.1.5 本館K様、踵部褥瘡発症、治療継続中 ・H30.3.2 本館M様、踵部褥瘡発症、治療継続中 3.10月 職員向け研修会を実施する (株)ネピアの講師による、紙おむつの正しい当て方、陰部洗浄の方法、スキンケアの指導を受ける
検 討	・1年間を通して褥瘡発症者は6名であった。 ・特に踵部褥瘡においては治療が長引く傾向となった。 また、内1名は悪化、入院加療となった事は如何に早期発見が重要かと再認識させられる事例なった。 ・表皮剥離、潰瘍形成はあったが悪化することなく治癒、早期対応面では介護職員と連携し、除圧、ポジショニングなどに注意し対応に努めることができた。 ・皮膚保護(レッグウオーマー、アームカバーなど使用する)などに各フロアで検討・実施できた。

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	感染症対策委員会
活動方針	感染症の発生の予防及びまん延の防止に努め、 感染症発生時に敏速・適切に対応する
計 画	1. 定例会議の実施 第4月(1回/3ヶ月) 2. 職員向け研修会の開催(年2回) 3. 感染症発生時の早期対応(臨時会議の開催) 4. 外来者への衛生管理対策の周知、徹底
人員構成	( 委員長 ) 安藤 あけみ  特養・SS相談員 介護主任 ケアマネ 管理栄養士 特養介護各フロア1名 デイサービス職員1名
報 告	《6月2日(金)》14:50～15:20 本館に拡大している発熱について 《9月29日(金)》18:15～19:15 感染性胃腸炎の疑いで受診となったK氏の対応の検証 本年度のインフルエンザの対応について 《10月27日(金)》15:50～16:15 本館の発熱者の対応について 《12月15日(金)》10:30～11:30 本館1階 インフルエンザ発症 対応について 《12月18日(月)》16:00～16:30 本館1階インフルエンザの経過と今後の対応 本館1階T・T様の喀痰からのESBL検出に対して 《1月11日(木)》10:00～10:30 職員2名インフルエンザ罹患 今後の対応について 《3月26日(月)》17:15～18:00 本年度のインフルエンザの対応についての評価
検 討	・職員に向けて感染症に対して外部講師を招いたことは新鮮で、職員にとっても意識付けになったのではないかと考える。ただ、職員の標準予防策という意識は少ない。副主任やリーダーなど発信力のある職員を委員会のメンバーにし、外部の研修にも参加してもらい知識を深め、各フロアに発信するようにしていく必要がある。 ・感染症に対しては早期に対応でき、インフルエンザ流行期の入院者は少なかった。本年度は今までになく長期にわたり面会の制限をした。面会制限に対するアンケートの結果で30年度の対応を検討する必要がある。 ・外来者の対して衛生管理対策の周知は徹底できていなかった。外来者に対しての声掛けをできる職員が少なく感染症に対しての意識知識不足が考えられる。教育に力を入れる必要がある。

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	安全委員会
活動方針	介護職員が実施できる医療的ケアを周知し、安心安全に実施する
計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例会議の実施(第4月 2ヶ月に1回)</li> <li>2. 職員向け研修会の開催(年1～2回)</li> <li>3. 介護職員による吸引実施の内容検証</li> <li>4. 医療的ケアの対象者の把握、医師他職種との連携</li> <li>5. 介護職員が活用可能な手順書、マニュアルの作成</li> </ol>
人員構成	<p>( 委員長 ) 安藤 あけみ</p> <p>特養介護各フロア1名、デイサービス1名</p>
報告	<p>《4月24日(月)》18:30～19:15 喀痰吸引対象者確認 医療的ケアの具体的なケアについて確認</p> <p>《7月31日(月)》18:30～19:15 喀痰吸引対象者確認 バルンカテーテルの管理について、爪のケアについて</p> <p>《12月1日(月)》18:30～19:00 喀痰吸引対象者確認 クーリングについて吸引器の使用方法確認 (資格保有者のみ)</p> <p>《2月24日(月)》18:30～19:00 喀痰吸引対象者確認 ボデイチェックについて 喀痰吸引実地研修を1月10日より開始 対象職員1名 実地研修対象の入所者 S・Y様</p>
検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会については実施できたが職員に向けての研修などの実施が出来なかった。業務の中で不安を感じるケアについて定例会で説明し、会議の議事録に残したが職員の目にふれたか疑問が残る。 次年度は資料を各フロアに配布し周知するよう働きかける。</li> <li>・喀痰吸引資格保有者に対してのフォローアップ研修を3月に実施出来なかった 30年度は月ごとにフロアを決め、年間を通して少人数ずつ実施していく</li> <li>・喀痰吸引実地研修は3月までに終了の研修ができなかった。 初めてのこともあり、研修の制度に対しての知識不足が原因と考えられる。 そのため早急に実地研修のマニュアルを作成する。 現在の研修に関しては県に申請し実施していく。</li> </ul>

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	防災・防犯委員会
活動方針	災害や不審者対応に備え訓練、研修を通して防災、防犯に関する正しい知識を身に付ける
計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例会議の実施(奇数月:第3金曜日)</li> <li>2. 職員向け研修会の開催(年2回)</li> <li>3. 防災訓練の開催(偶数月:第3水曜日)</li> <li>4. 防犯訓練の開催(2回実施)</li> <li>5. 設備の自主点検</li> <li>6. マニュアルの作成、更新、整備、活用(施設方針)</li> <li>7. 活動記録の充実(記録に残す)</li> <li>8. 施設外研修会への参加</li> </ol>
人員構成	<p>(委員長) 白石 直之</p> <p>白屋政志 藤本立子 秋山 かおり 花澤直之</p>
報告	<p>《H29.5.21》 消火訓練実施 水消火器使用にて新人職員対象に消火器の使用説明を行う、実際の消化器と違うことも説明。</p> <p>《H29.7.26》 総合防災訓練実施 新人職員に対して初動対応をどのようにするのかを説明。 また水消火器を使用し、通報からの避難も行った。</p> <p>《H29.9.20》 神戸西消防署査察 特に「指示事項なし」と結果通知書をいただく。</p> <p>《H29.11.14》 総合防災訓練実施 比較的スムーズな訓練となった。しかしながら、職員からの途中報告が少なかったことが今後の改善点である。</p> <p>《H30.1.10・H30.1.15》 サービス向上委員会 図上訓練実施。地震が発生してからどのような行動、対応を行うのかを、グループに分けて話しながら行う。 難しいことではあったが、各グループからたくさんの回答を得ることができ、今後の検討事項にもつながった。</p> <p>《H30.1.15》 備品点検実施 消火器、非常扉及び階段周辺など物が置いていないかを確認。 また、非常食がスムーズに取り出せるかの確認も行う。</p> <p>《H30.1.17》 備蓄食作成実施 各フロアにて親子丼のレトルトを湯せんし、利用者に食べて頂く。 手順の確認などを行う。</p>
検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は委員会の開催が出来なかった為、次年度は定期的開催する。</li> <li>・マニュアルにおいても職員全員が分かりやすく、見やすいものを作成し、職員全員が危機的な場面に遭遇した時に、スムーズな対応が出来る様訓練も行う。</li> </ul>



《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	接遇委員会
活動方針	おもてなしの心を育み、表現できる人材育成を目的とする
計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例会議の実施（奇数月第4木曜日）</li> <li>2. 丁寧な言葉遣い・身だしなみを指導</li> <li>3. 外部研修への参加（接遇指導者研修等）</li> <li>4. 年間を通じて接遇改善計画を立案、実行する。</li> <li>5. マニュアルの改正・整理</li> </ol>
人員構成	<p>（委員長） 清水 敬久</p> <p>橋津春子 岡野充孝 小田華子 前原亜紀子 河口幸美</p>
報告	<p>《5月25日》接遇委員会開催 接遇に関する意識調査とグッジョブカードの導入を検討。</p> <p>《7月27日》接遇委員会開催 アンケート結果まとめ、接遇改善点の把握。 ビジネスマナーを学ぶ機会を検討。</p> <p>《9月24日》接遇委員会開催 第1回グッジョブカード実施の打ち合わせ</p> <p>《11月24日》接遇委員会開催 第1回グッジョブカード実施後の反省・改善を検討 職員同士の呼び方、研修マナーを再確認、掲示。 第2回グッジョブカード(ありがとうの木)実施の打ち合わせ</p> <p>《3月22日》接遇委員会開催 第2回グッジョブカード(ありがとうの木)実施後の反省・改善を検討 第3回グッジョブカード(創立記念)実施の打ち合わせ 制服の取り扱いに関する諸注意点を確認。</p>
検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初に施設職員へのアンケートを行い、当施設の接遇における改善点の把握に努めた。職員間のコミュニケーション能力向上や良い関係性の構築に軸を置いて活動する運びとなった。具体的には年間を通じて3度のグッジョブカードを実施し、職員間で良い所をみつけ合い表現する練習に取り組んだ。</li> <li>・グッジョブカードの目的が全職員に浸透したとは言い難かった。なるべく多くの職員に理解してもらい、自発的に参加して頂くか実施段階での課題が残った。今期は初期段階と言うこともあり、正職員対象・ペアでの参加、賞金を付けるなど限定やテコ入れしながら参加の輪を広げていくよう努めた。結果、第三回は100%に近い参加率となったが、褒め合う企業文化を確立するには、全職員を巻き込みながら具体的な案を改善実施しつつ、根気よく継続していく必要があると考えられる。</li> </ul>

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	環境整備委員会
活動方針	清潔且つ安全、快適な環境を維持
計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設内外の清掃及び整理整頓を定期的に行う</li> <li>2. 行事前には施設外周りの清掃を行う</li> <li>3. 欠損物品を発見した場合の早期対処を図る</li> <li>4. 定期的に各居室の障子の確認、貼り替えを行う</li> <li>5. 花壇(プランター)には四季折々の花を植える</li> <li>6. 会議を行う(不定期開催)</li> <li>7. 計画書の作成、実施確認を行う</li> </ol>
人員構成	<p>( 委員長 ) 小西 正朗</p> <p>施設全職員</p>
報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇(プランター)の花を植え替えを他職員の協力もあり植え替え実施できた</li> <li>・行事前の外回り清掃も留学生、職員の皆様の協力があり実施した</li> </ul>
検討	<p>《 今期活動方針についての達成状況 》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日よけの設置等他職員任せになったところも多くあった。</li> </ul> <p>環境整備員が中心となり実施出来るよう計画していく。</p>

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	労働安全衛生委員会
活動方針	職場環境の改善・職員の精神的健康の保持
計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期健康診断結果の対策の樹立</li> <li>2. ストレスチェックの実施</li> <li>3. 職場環境の定期巡視</li> <li>4. 安全衛生委員会規程の制定</li> </ol>
人員構成	<p>( 委員長 ) 宅見 壽仁</p> <p>井上衛生管理士、横山従業員代表、東谷従業員副代表 河口衛生管理士、花澤直之</p>
報告	<p>H29.8 腰痛問診票の実施</p> <p>H29.10 職員インフルエンザ予防接種実施</p> <p>H29.10.1-10.31 全職員対象のストレスチェックを実施 対象職員96名 参加率66%</p> <p>H29.11 神出シニア健康だよりを発刊(月1回)</p>
検討	<p>ストレスマネジメントに関心を持つ職員が増加傾向にある。</p> <p>自身のストレスにどう向き合うかは大切なことである為、研修等開催し、知識習得の機会を設ける。</p> <p>インフルエンザ感染では、職員家族の罹患が多くみられた。職員は予防接種を受けているが、家族の接種も呼びかける(補助等検討)</p>

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	給食委員会
活動方針	1. 季節感を大切に 2. 接遇についてスキルアップ
計画	定例会議の実施(毎月第1金曜日) ・ 栄養管理に関する検討 ・ 献立、調理等に関する検討 ・ 行事食に関する協議 ・ 誤嚥防止に対応するスキルアップ
人員構成	(委員長) 横山 晶子  特養・SS相談員 介護主任 ケアマネ 特養介護各フロア1名 デイサービス1名  (ラフト)栄養士 現場責任者 本社管理栄養士 マネージャー
報告	4月7日 花見弁当の誤嚥事故について 5月12日 お茶の衛生管理について。行事食の反省 食事摂取量表の記入方法 6月3日 汁椀の購入予定(器の検討) 飲み物の適温について 7月4日 とろみの統一・副食のトロミについて 各フロアー管理者について(副主任) パン食についての試食 8月4日 冷蔵庫の清掃マニュアル作成 川崎貞子様(ラフト)の誤嚥事故について 9月1日 大量調理マニュアル改正についての対応及び (ラフトより) ノロウィルスの疑いがあるときの対応報告 10月6日 秋祭りの食事について 11月7日 温冷配膳車からの水漏れによる利用者の転倒に 対する危険予測 12月5日 年末年始にかけての食事内容 1月9日 行事食の反省・異食事故・備蓄食について 2月2日 次年度の行事食の検討 3月2日 半分量食の検討
検討	1. 「季節感を大切に」は行事食としては達成した。 特に秋祭りでは利用者の家族から頂いた野菜・果物で収穫祭の雰囲気を作れてよかった。 2. 接遇に関しては衛生面に視点で対応した。 各フロアーのパントリーの衛生管理者を決め、清掃マニュアルを決め、実施できている。 給食委員の委員構成を見直し、日常の食事について具体的な意見交換をする。

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	入所検討委員会
活動方針	神戸市入所指針に基づき、公平性・透明性を確保し、適正に実施する
計画	1.定例会議の実施(毎月最終月曜日) 2.定例会議以外にも随時の開催 3.速やかな入所をすすめる 4.稼働率向上 5.営業活動の強化
人員構成	(委員長) 東谷 友和 特養相談員 介護主任 ケアマネ 管理栄養士 特養介護各フロア1名 デイサービス職員1名
報告	1.定例会議 ・4/13 ・5/28 ・6/26 ・7/31 ・8/28 ・9/25 ・10/30 ・11/27 ・12/21 ・1/29 ・2/26 ・3/22 計 12回開催 2.随時開催 3.速やかな入所をすすめる。 随時開催・・・9回 4.稼働率向上。 入所待機者の把握し、ショートステイの利用等も勧める。 入所希望者の意思確認や申し込み時に、随時委員会を開催 5.営業活動の強化。 病院・居宅・老健への待機状況/空状況の連絡、訪問。
検討	・入所申込みがあった時点で、出来るだけ速やかに委員会開催するが、受け入れ困難や、開催後状態確認の為連絡も複数申込されている方も多く、既に他施設入所が決まっている事も多くあった、申込みがあった時点での状況把握等今まで以上に速やかに行っていく。 ・入院者の状態把握の為、入院先に面会やMSWとの情報交換行ったが、はっきりとした入院期間等把握難しく、ショートステイへの空きベッド利用の情報提供が出来なかったため、ある程度の入院期間把握するよう入院先との連絡を密にとり、ショートステイ相談員とも情報共有を行っていく。

《 平成29年度事業計画・報告 》

委員会名	ほっとシニア倶楽部
活動方針	地域公益活動における地域が求める活動を発展させる
計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎月開催されるふれあい会食会の利用者の送迎</li> <li>2. 地域交流企画の立案、および企画時の送迎(5・8・11・2月)</li> <li>3. 定例会議の実施(3ヶ月毎 第1水曜日)</li> <li>4. 地域行事への参加</li> <li>5. 活動記録の充実</li> </ol>
人員構成	<p>( 委員長 ) 中嶋 健一郎</p> <p>特養相談員 介護主任 ケアマネ 管理栄養士 特養介護各フロア1名 デイサービス職員1名</p>
報 告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月第1火曜日に開催されるふれあい会食会の送迎を実施した。</li> <li>・地域交流の企画を年4回計画し、参加人数は延べ39名であった。</li> <li>・地域行事への参加はできていない。</li> <li>・認知症カフェを開催し、5回で延べ120名の参加があった。</li> </ul>
検 討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい会食会の送迎と認知症カフェの開催、地域の交流する企画を継続していくとともに、地域福祉の拠点としての地域貢献を意識した取り組みを行っていく。</li> </ul>